

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O

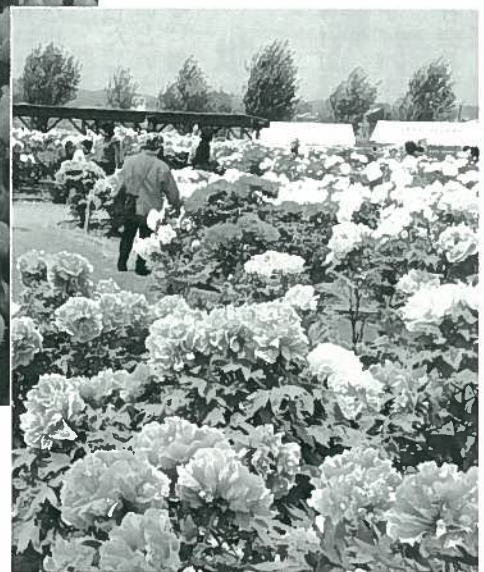


4.5 特集 平成19年度「子どもの生活圏づくり研究集会」
参加報告

- 2 **トピックス** 平成19年度新潟県公民館関係役員等研修会兼新潟市公民館職員等研修会開催
- 3 **視点** 独立国「童夢」の地域づくり
- 3 **ひろば** 地域活動の活性化
- 6 **実践記録シリーズ** 岩室ふるさと講座の開講
- 7 **サークル交流** POPに楽しく踊りませんか！（新潟市）／地震に負けずに歌って（刈羽村）
- 7 **素顔拝見** 寺島 武司さん（妙高市）／山本 綾子さん（長岡市）



巢本のチューリップ畑



ぼたん園のぼたん百種展示

表紙解説 毎年好評の五泉市花シリーズ。3月下旬の水芭蕉から4月中旬の桜、4月下旬にはチューリップ、5月上旬にはぼたんが咲き誇ります。



平成19年度新潟県公民館関係役員等 研修会兼新潟市公民館職員等研修会開催

研修テーマ 人生の新学期を

公民館で始めよう!!

「団塊のパワフル世代を公民館に」
前号で理事会・評議員会の報告を掲載した関係で、この研修会の報告が遅れたことをまずお詫びしたい。

2007年問題と団塊世代への対応事業を何とかせねば、県公連の課題であったが、今回ようやく取り組むことができ、ほっとしているところである。

当初、百余名も集まればそれで良し、と考えていたが、何と二百四十余名の参加を得て、会場を急ぎ変更し、去る二月二十七日(水)新潟市白根学習館で開催された。

幸い好天に恵まれ、開会行事は簡素に済ませ、早速事例発表に入った。



事例一は、「学びあえるまち・酒々井」をめぐり、千葉原酒々井町中央公民館 浅野恵美子館長から発表があった。内容は、「カレッジコース」の概要と「自

主学習のまとめ」、「学びあえるまち・酒々井」タウンミーティングの経過及び概要、ニューカレッジコースがスタートして、研究実績は、必ず研修生の自主企画・作成により冊子として刊行するものだった。

事例二は、食のおもしろセミナー、加茂市公民館佐藤俊夫館長よりパワーポイントを活用しての発表がなされた。

公民館の課題から講座「食のおもしろセミナー」「初心者男の料理教室」の開設そして運営、アンケートによる評価に至るまで、具体的な説明がなされた。

事例三は、「団塊の世代」向け講座「プレミアムライフ塾」の開催について、新潟市中央公民館佐藤功主査から、これもパワーポイントを駆使しての発表であった。

一、開催経緯、二、講座内容の検討(1)講座の位置づけ(2)日程(3)内容、三、講師選び、四、広報、五、初年度の状況、六、二年目の状況等、系統的にしかも論理的かつ具体的な発表で、理解を得るのに十分だった。

総括・講演は「人生の新学期を公民館で始めよう」と題して、聖徳大学福岡強先生より、◇創年時代の提言、◇創年の活動、◇各地の創年たちが挑戦する仕事づく

り、まちづくり活動について具体的な実践例を紹介して、しかもユーモアあふれる説得力十分の内容であった。

研修会終了後のアンケートで、全体のみにみて、大変良かった 35%
良かった 58%
で、好評のうちに終わることができ、実行委員会としても、ほっとしているところである。



新しい出合いを大切に

「よろしく願います」

事務局長 相澤 健蔵

戸外の梅の花が少しずつ咲き初めた三月半ばに原稿依頼をいただきました。間もなく定年退職の時を迎えようという時期と重なり、やや複雑な思いもあります。ひとつのことの終りと、新しいことの始まりとの境目ということもあり、気持ちの整理がまだできていないことに起因する思いでしょうか。

三十八年間中学校教員として勤務してきました。その間、社会教育や公民館との関りがあったのは、平成九年に新潟県で開催された全国生涯学習フェスティバルの時でした。準備から開催までの二年間、県内各市町村の担当の方々と各種団体、多くの企業等への参加をお願いする立場での仕事を経験した時です。

私自身は、市町村等の現場での社会教育や公民館の企画や運営等の経験はありません。鈴木事務局長さんからは、事前に勉強しておくようにと、多くの資料等をお送りいただきました。しかし、現状を理解したうえで新しい職責を果たせるかどうか心許無いというのが本音のところではあります。

今までに十一の職場で勤務しました。異動のたびに思ったことは、人との新しい出合いを大切にしたいということでした。この思いは、今後とも継続したいと思っています。微力ながら努力いたしますのでよろしく願います。

プロフィール

- 社会教育関係への勤務歴
- (1) 平成8年4月1日〜平成10年3月31日
新潟県教育庁生涯学習推進課副参事(社会教育主事)
- 主に第9回全国生涯学習フェスティバル事務局で、準備から開催、事後の報告書の作成等に従事。
- (2) 平成17年度〜19年度 新潟市社会教育委員

BOOKS INFORMATION

自主財源確立のためには

「新潟県公民館月報」の自主購読推奨

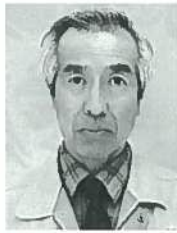
公民館月報(個人購読大歓迎) 定価1部150円 年共・年極 1,800円

申込先 〒951-8053 新潟市中央区川端町2-9 県林業会館内 県公民館連合会事務局 TEL・FAX025-224-6073

視点

独立国「童夢」の地域づくり

独立国「童夢」元首 井上 智明



子どもたちに夢のある地域を残したいと、田舎社会の古いシガラミからの独立を宣言したのが、最初に取り組んだ事業「城平遊歩道」が完成した昭和62年のこと、以来ある時は思いつきで、またある時は周到な計画を立てながら様々な活動を展開してきました。その活動を支える理念は

- 一、自分たちの楽しいこと
- 一、地域のために役立つことの二点です。常に前向きな目標を掲げ、自主的自発的に自分たちの責任で労力も経費も提供する。こんな自律的な活

動の礎は、互いに知恵も技術も物も出し合う「出し合い」の精神に有ります。これは助け合いの心に通じ、地域社会において必要不可欠なものだと確信しています。

とかく煩わしいことを避けようとする世の中、あえて煩わしいゴツタクを計画し汗を流す。汗の先には必ず感動が待っています。その感動こそ地域の連帯感を生む源泉なのです。どうですか、皆さんも一緒に「感動は流した汗に比例する」を合言葉に、ゴツタクをしてみませんか。

H O T N E W S

掲 示 板

平成19年度 第2回編集委員会開催

平成20年3月19日
於新潟市生涯学習センター
303講座室

- 1 開会あいさつ 田村委員
- 2 内容
 - (1)新潟県公民館月報平成20年4月号～9月号の特集テーマについて
 - (2)平成19年度「子ども生活圏づくり研究集会」の参加報告について
詳細報告は、4・5面特集 参照
 - (3)その他
- 3 閉会あいさつ 尾組委員

退任のことば



前事務局長 鈴木 友夫

11年間にわたりご支援、ご協力いただき、誠にありがとうございました。

県公連50周年記念事業、関公民館新潟大会の開催、全公連創立50周年事業等、皆様からのご支援で達成できたことを喜んでおります。

参与として、しばらく運営に協力して参りますので、何分よろしくお願いいたします。

地域活動の活性化

ひろば

刈羽村社会教育委員 新野 勝幸

地域社会の自立が強く求められている現在、刈羽村では集落組織や、地区集会場(コミュニティ)などの単位で活動が進められ、行政の設定のみにとどまらず村民一人ひとりが積極的に参加し地域作りに参加している。特に地域の中心である地区集会場の活性化が求められている。子どもから大人までがふれあいを求め集まってくるような地域活動の充実が必要となっている。



- 刈羽村社会教育委員 新野 勝幸
- 一、コミュニティをリードする組織を育成する
 - 二、コミュニティをリードする組織を育成する
 - 三、コミュニティをリードする組織を育成する
- ◇重点目標として
- 一、各地区集会場運営協議会を拠点として、地域振興、教育振興、保健体育生活改善等の各部門を通して地域振興を図る。
 - 二、学校週五日制に伴う子どもの居場所作り
 - 三、指導員(アドバイザー)の資質の充実
- 地域の人たちが地域を愛し、地域の活動に積極的な参加が必要。

の生活圏づくり研究集会」 参加報告

年度に中学校区毎の12のコミュニティ全てに地域教育協議会を設置、13年度には行政内部に関係5部からなる家庭教育推進町内検討委員会を設置、平成14年度に地域の教育力の強化と家庭の教育力の強化を内容とする寝屋川市家庭教育推進計画を策定し、家庭教育フォーラムが開催された。平成15年度からは家庭教育推進事業として赤ちゃんに絵本を贈ろう事業、子育て支援カレンダーの作成・配布などが始まり、平成19年度では62事業が取り組まれている。特に小学生から中学生へ年代が進むに伴い、良いところも悪いところも入れて自分が好きだという自己肯定度が低下するとの市の子ども意識調査を受け、自己肯定感を育む励ましを最重要と位置づけているとの報告がなされた。

事例2

「指導者・コーディネーターの育成」について、広島県教育委員会が平成19年度に実施した「放課後子ども教室・児童クラブ指導員等研修会」と「放課後子ども教室コーディネーター等研修会」について報告がなされた。



広島県では62教室が行われていて、放課後子ども教室・児童クラブ指導員等研修会では、「子どもの犯罪被害防止」をテーマにして講義編・実技編・活動発表・講義からなる1日の研修プログラムが紹介された。

また、放課後子ども教室コーディネーター等研修会では、2回の連続講座で講義とワークショップが行われ、「コーディネーターには理想型はない!」「地域にとって実情に応じた望ましい有様を導き出すことが重要」等の講師からのアドバイスが紹介された。

事例3 家庭における食育推進を目的に、平成18・19年度に文部科学省の委託を受けて東松山市で行われた子どもの生活リズム向上のための調査

研究の報告がなされた。

兼業農家を中心とする稲作農業地帯にある野本小学校での取り組みで、公民館、PTA、小学校、生涯学習課が中心となって実施された。事業の内容は、事前・事後の睡眠と朝食に関するアンケート調査、保護者・子ども向け啓発活動、4泊5日の通学合宿、朝食作り研修会などであった。結果として、心配されていた子どもの生活リズムの乱れはほとんど認められなかったとの報告がなされたが、会場から食事の内容や誰と食べているかなどアンケートのとり方について意見が交わされた。

3. 分科会

2日目には3つの分科会があり、「生活リズム向上プログラム」の分科会に参加させていただいた。



講師の和洋女子大学の鈴木みゆき教授から、まず、子どもを取り巻く環境の変化について、全ての子どもの世代が寝不足であり、朝食の欠食率が上がっており、親を含めた家庭での生活リズムに関する知識の欠如が指摘された。

次に、成長ホルモンは、夜寝ているときに集中して分泌されるなどの早寝・早起きの科学的根拠についての解説が行われた。そして、地域創生に向けて、母親を孤立させないために地域の“おばさん”になろう!子どもたちの生活リズムの改善のために、夜子どものいない街づくりへの取り組みを提言された。

今回の研究集会に参加してみて、早寝早起きや朝ごはんが子どもの成長にとって、いかに大切であるかを実感することができた。しかし、子どもの生活リズム向上のための取り組みは学校現場では広まっているが、それ以外ではまだ浸透していない現状であった。公民館をはじめとする家庭教育に携わる関係者は、より積極的に取り組む必要性を痛感した集会でした。

特集

平成19年度「子ども」



見附市中央公民館

館長 早川 洋介
(公民館月報編集委員)

2月14日、15日に開催された「子どもの生活圏づくり研究集会」に、公民館月報編集委員として取材参加させていただきましたので報告いたします。

この研究集会は、地域における子どもの安全安心な居場所作りや生活リズム向上を進める団体・施設等の関係者が集い、相互の情報共有と今後の展開に向けて意見交換を行うことにより、日常的な体験活動支援の充実を図るために開催され、全国から約150名の参加がありました。

1. 基調講演

最初の基調講演では、東京ボランティア・市民活動センター所長でもある神奈川県立保健福祉大学の山崎美貴子学長から、「地域で子どもを育てる視点—地域は子育ての応援団—」と題して講演が行われ、離婚・再婚・一人親など多様化した家族に対して、教科書での家族のモデルは核家族であり、そこにミスマッチがあると指摘し、行政の縦割りに落ちていく子どもたちを救う地域のネットワークの必要性を訴えられた。

○子育て家庭の今

山崎氏は以下のように現状を分析され、自分の人生に満足していない親たち現代家族の特性を



みつめなおす必要性を説かれた。

- ・仕事と子育ての両立で疲れているお母さん
- ・多様化（離婚・再婚・一人親）し始めた家族
- ・家族以外周りに相談する人がいない—孤立化
- ・子育てについて見通しがもてない

- ・子育てに生きがいや喜びを満喫できない親たち、負担感が強い
- ・父親の協力はあろうといて足りないと感じている母親たち
- ・「社会的養護」を受けている子ども数の増加
- ・子どもの数は減っているにもかかわらず親によって育てられない子どもの増加

○現代家族の特性

—ネットワーク社会における家族—
モバイル機器の登場により、家族は場からの制約から排除されてきている。家族がどこかに出かけても携帯があるため居場所を聞かない。必要があれば携帯で確認すれば良い。家族の絆は携帯を持つメンバーの間に存在し、このことは場の共有と役割の分化を前提とした核家族の崩壊を意味している。家族という枠は開放され、今まで家族が担ってきた子育て、高齢者の介護、社会的弱者の世話は、家族の境界を越えて外部へとコミュニティに吐き出されてきた。児童館やファミリーサポートなど子育ての分化が進められてきた。現代社会は、このように家族の変化によってネットワークに支えられたコミュニティが必要となってきている。

○地域は子育ての応援団

—力強くエールを送り続けよう—
それぞれの地域の資源を活用して、子育てのもう一つの砦として地域の果たす役割は大切。子どもたちの居場所を提供するだけでなく、親たちのよきパートナーとなっていてほしい。子育てグループの立ち上げ支援やグループ同士の交流の支援、当事者の声を行政に届ける支援など、地域ならではの多様な支援プログラムがまちづくりへとつながっている。

2. 事例発表

事例1 大阪府寝屋川市における「子育て支援にかかわる連絡協力体制の整備」の取り組みのきっかけは、平成10年中学生が小遣い欲しさに高齢者を殺害したことによる。この事件は家庭でも防げない、学校でも防げなかったとして、平成12

実践記録

121

シリーズ

岩室ふるさと講座の開講

新潟市西蒲区岩室地区公民館 竹内みよ子

1. はじめに

今、時代に即した公民館のあり方とともに、その方向性も問われる時代となって来ているが、だからこそ、今、地域が一体となって伝統の上に創意工夫を加え、足元から地域を見直す時期と考える。

それらを踏まえ、19年度は「岩室ふるさと講座」を開講した。海、山、平野と自然に恵まれ、温泉とともに長い歴史を刻む岩室には今も変わることなく、かけがえのない財産が残されている。講座を通して、その自然や歴史、文化に触れながら故郷再発見につなげ、地域活性化を願う。

2. 内容

回	日程	内容
1	7月14日(土) 10:00~12:00	岩室の郷土食「間瀬の銅壺鍋」
2	9月29日(土) 9:00~14:00	岩室の名水と多宝山の山野草 名水を使ったミニ茶会(お寺)
3	10月11日(木) 9:30~15:00	間瀬を拓いた西堀の「泉性寺」の歴史を訪ね、また、間瀬大工の残した遺構を検証
4	11月10日(土) 16:00~18:00	開炉裏のあった暮らしと郷土食 旧庄屋「佐藤家」

■ 1回目

間瀬の漁師が船上で煮炊きした「銅壺鍋」の再現。講師の本間さん(85歳)「この銅壺鍋もおれが居なくなったら、わかる者は誰もいなくなるから」と引き受けてくださった。今、まさに消えつつある「銅壺鍋」の再現。獲りたてのアンコウさばきがまた大胆で、参加者も興味津々であった。味噌仕立てで美味しかったその味もまた懐かしい物になり、忘れ去られてしまうのだろうか。寂しい限りだ。



銅壺鍋

■ 2回目

約一千種類もあるという「多宝山」の植物。林道を一步入れば、そこはまさに植物の宝庫。何百年と生きてであろうその風格と向き合えば、木々の持つ生命力がひしひしと伝わり、自然によって生かされていることに気づかされる。また、「名水」とその「いわれ」に触れながら参加者は心地よい汗を流し、最後は浄専寺でのミニ茶会。県文化財の趣と静寂な庭園を眺めながらのいっぷくは、これまた格別であった。



多宝山の山野草

■ 3回目

西堀の泉性寺と聞くと、皇太子妃雅子様ご実家の菩提寺であることを知る人も多い。今回はその泉性寺が今からおよそ350年前、岩室の夏井地区にあったというところからスタート。その寺跡から西堀へと歴史を追ってみた。また、間瀬の大工集団が建築した吉田神社、清徳寺(内野)を訪ね、間瀬大工の優れた彫刻の技法に目を奪われ、先人の伝統の技をしのんだ。



泉性寺跡の説明

■ 4回目

その昔、家族憩いの場でもあった開炉裏端には真っ赤に炭が熾き、自在カギに吊るされた鉄瓶にはジンジンと湯が沸いて客を迎えてくれる。昔ながらの「かまふるさと講座、開炉裏のある暮らし」を使ってご飯が炊き上がると、いよいよケンサ焼きに挑戦! 「大き過ぎる」やら「もっと丸く!」と厳しい講師の声が飛ぶ中、さっそく網の上に並べる。「昔はこうして年寄りから昔話を聞いたなあ〜」参加者それぞれの思いと重ね合わせて、なごりの尽きない秋の夜は過ぎて…。



3. おわりに

「ふるさと講座」開講にあたって、何よりも心強かったのは「公民館協力員」の制度であって、10名の協力員がそれぞれの特技、知識をフルに生かした協力は見事なもので、公民館も大いに学ばせられた。企画当初「地域は今何を求めているのか」手探り状態でのスタートだったが、4講座とも定員をはるかに超える反響があり、すぐにその思いは解消するに至った。

結果、希望者には全員参加していただきたいという思いから、最大の工夫をして取り組み好評を得た。内容については、歴史や自然、文化や食と少々欲張ったきらいもあったが、自然を通して自然界の命の重みを肌で感じ、昔の懐かしい暮らしぶりにどっぴりと癒された。そして、先人の足跡を辿りながら歴史やその遺構に触れることができた感慨深い「ふるさと講座」となった。

20年は、岩室のシンボル多宝山の山脈として、直江兼続ゆかりの天神山や山岳信仰にスポットを当て継続予定。

POPに楽しく踊りませんか!

ポップハート

私達ジャズダンス「ポップハート」は、結成四年のぴちぴちの若いダンスサークルです。

キッズチームは(四歳から小学三年)毎週木曜十七時から十八時、ジュニア&アダルトチームは(小学四年から大人)毎週土曜十時から十一時半、ダンスが大好きな子どもと大人が集まり活動しています。色々なイベントに参加させてもらい、発表の場を広げています。子ども達は舞台でスポットライトを浴びる喜びを



知り、そしてダンスを通して体を動かす楽しさ、踊る楽しさを感じレッスンに励んでいます。明るく楽しいダンスサークルなので、気軽にレッスンの見学に来て下さい。先生、みんなも待っています。

新潟市 白根

ポップハート

小林 典子 記



地震に負けずに歌って

すなやまコーラス

七月の中越沖地震後、刈羽村文化祭の実施が危ぶまれましたが、「こういうときこそ元気を出そう。」と開催が決定しました。

二十名のメンバーの中には、自宅が全壊して仮設住宅で暮



らしている方もいます。合唱練習の会場も避難所になっていました。そんな中で、九月に練習を再開しました。

二カ月ぶりの練習日。歌い始めると、生活の不安や心身の不調などがすうっと軽くなり、胸の中に灯りがともったようでした。歌は喜びであり、合唱から元気をもらいました。十一月の文化祭の本番では、会場の皆さんと一緒に「ふるさと」を大合唱し、「地震なんかには負けないぞ」という思いを強くしました。

刈羽村

すなやまコーラス

安達 和 記

社会教育指導員として9年のキャリアを持つ山本綾子さん。

少年教育活動である「はーとふるクラブ」などの事業を担当し、自らも自然観察指導員、ネイチャーゲームリーダーとして活躍中です。

子ども達の体験活動が多方面で見直されるなか、豊かな自然の中での「体験活動」、「絵本に出てくるクッキング」を通じて、食育を考える事業を進めています。

また、希望する小学5・6

長岡市小国公民館

社会教育指導員 山本 綾子さん



年生が、3泊4日の日程で食事作り・掃除・洗濯などの日常生活を体験しながら通学する「通学合宿」も担当し、まさに公民館に集う子どもたちのお母さん役です。

小国地域も少子高齢化で子どもの人数が減少傾向にありますが、子ども達が体験活動で得られる新たな発見と笑顔に会えるのが楽しくて、今日も奮闘しています。

(長岡市教育委員会小国分室長補佐

山田 典子 記)

寺島さんは主に学校開放や通学キャンプなど、子どもの体験学習に関わり、地域と子どもの絆を結ぶ仕事をしています。さわやかな笑顔のイケメンで、市民への思いやりある行動は、妙高市が推進する『ゆ

妙高市教育委員会 生涯学習課

主事 寺島 武司さん



妙高市民の心』そのものです。7月にパパとなり子育てと仕事を両立しながらご活躍されることと思います!

(妙高市教育委員会生涯学習課主査

山本 優子 記)

素顔 拝見



event information

平成20年4月の催し物ご案内

星と音楽のトピラ

解説員が選んだCD音楽を聴きながら、春の星座などを生解説します。

- 日時 4月6日(日) 16:00~16:40
定員 当日入館者先着210名
料金 入館料のほかに 大人 100円 小・中 50円
場所 プラネタリウム

星空ウォッチング

今月は、大型望遠鏡などで火星・土星・月などを見ます。

- 日時 4月13日(日) 19:30~21:30
定員 申込先着260名(申込用紙または電話にて)
料金 お一人様 200円
場所 プラネタリウム 屋上

プラネタリウム春番組 好評放映中!

ボクたちの竹取物語

月周回衛星かくや 3月1日(土) ~6月15日(日)

私たちにとって、一番身近な天体(月)。けれど月には、まだまだたくさん...

君はもう 行ってみた? ナイトミュージアム 4月25日(金) 17:00~21:00

夜の科学館「特別イベント」が今年も始まるよ! みんなで「遊び」、「科学」をしよう!

光の科学工作教室

身の回りの光の不思議? コップの中に作る虹はどんな形かな?

- 場所 1階講堂
時間 1回目 18:00~ 2回目 19:00~ 3回目 20:00~
定員 各回50名
参加費 50円

マイナス200℃の世界

液体窒素を使った物理実験スペシャル! マイナス200℃の世界では何が起るの? 土・日に行っている「物理実験」のナイトミュージアムバージョンです!

- 場所 1階ステージ前
時間 1回目 18:30~ 2回目 19:30~
参加費 無料

光で不思議写真

ホロスベックフィルムで光がふしぎな模様になるよ! 虹色の光と一緒に科学館記念撮影!

- 場所 当日のお楽しみ!
時間 17:00~21:00
参加費 無料

NIIGATA SCIENCE MUSEUM 新潟県立自然科学館

〒950-0948 新潟市中央区女池南3丁目1番1号 電話: 025-283-3331

新潟県立自然科学館 検索

Net work ネットワーク

美しい国土と豊かな環境を未来の世代に

過疎地域は、我が国の豊かな自然や歴史・文化を有するふるさとであり、国民共通の財産です。

この大切な地域を未来の世代に引き継ぐため、平成22年3月末をもって失効する現行の「過疎地域自立促進特別措置法」に替わる新たな法律の制定が必要です。

新潟県過疎地域自立促進協議会

会長(出雲崎町長) 小林 則 幸

新潟市中央区新光町4-1 新潟県自治会館内 TEL 025 (285) 0041 FAX 025 (285) 1609

◆新潟県内の過疎市町村(15市町村)

長岡市、上越市、柏崎市、十日町市、村上市、糸魚川市、妙高市、佐渡市、魚沼市、阿賀町、出雲崎町、川口町、津南町、関川村、粟島浦村

恵贈資料紹介

第55回全国地域婦人団体研究大会報告書

この研究大会の報告書は、去る07年10月15日(月)~16日(火)にかけて、県外から六八七名、県内から六五八名、計一、三四五名の参加を得て、新潟市「朱鷺メッセ」を会場に開催された内容をまとめたものです。

内容は、開会行事、講演、分科会、全体会、閉会行事等



から構成されており、とくに注目すべき内容は、第2分科会「国際理解と人権」

全国地域婦人団体連絡協議会 新潟県婦人連盟

で、第一部、隣接する諸外国の理解として横田滋氏・早紀江氏の講話、第二部、国際理解を深める婦人活動のあり方として、パネルディスカッションが行われております。

また第6分科会「環境と防災」では、佐渡市での朱鷺の放鳥を前にしての取り組み姿勢等が報告されております。

あと、第4分科会「地域こしと婦人会活動」として、マンネリ打破の運動事例で、早寝、早起き、朝ごはん運動、子育て支援等が報告されております。

全体会では、大会宣言、大会決議がなされておりますが、いずれも外向きの内容で、市町村合併に伴う支部組織の弱体化や、会員減及び会員の高齢化に対応する手だて等、内向きの対策が採り上げられていないのがやや残念です。

あ と が き 県内の合併は一段落いたしました。

県公連役員の人事異動もかなりありますが、次号で紹介する予定としております。

今月号は、引き継ぎも兼ねて新旧事務局長で作成しました。(鈴木・相澤記)